

3.1.2 教育研究の組織

【評価項目4-0-1】 教育研究の組織

(必須要素) 学部・学科などの組織の教育組織としての適切性、妥当性

【評価項目4-0-2】 教育研究の組織の検証

(選択要素) 教育研究組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況

<2003年度に設定した目標>

今後の現代社会のさらなる多様化に対応すべく、既存の二学科の特徴を十分に活かした今後の教育研究組織のあり方を模索することが課題である。

(現状の説明)

社会学部は1960年に創設され、1999年度より社会学科・社会福祉学科の二学科制のもとで教育研究活動にあたっている。

社会学科は「現代社会学」「地域・生活・環境」「メディア文化」「企業・ビジネス・情報」「社会心理」の5つのコースを柱としたカリキュラムを編成し、そのもとで多角的な視野から現代社会のさまざまな問題に取り組んでいくための教育研究をおこなっている。

社会福祉学科では、「ミクロ領域」「メゾ・マクロ領域」という2つの研究領域にまたがるカリキュラムのもとで、福祉現場の実践に関わる教育研究に取り組んでいる。

2000年度の学部教育・研究組織の改革以降、現代社会が直面するさまざまな問題と課題に多角的に取り組むと言う社会学部の教育理念をより充実したかたちで実現することに、学部全体として取り組んできた。

(点検・評価の結果)

広い視野と専門的な知識体系と実践力を身につけた人材を育成するという社会学部の教育理念は、社会学科・社会福祉学科の二学科制という教育研究組織のもとで十分に実現されていると判断する。社会福祉士・精神保健福祉士・社会調査士という専門資格の取得者を多数輩出していること、学生の卒業後の進路が多岐にわたることからも、社会学部の教育理念が着実に現実化していることが確認できる。

今後、より多様化していくことが予想される現代社会が抱えるさまざまな問題や課題に対応していくうえで、現行の社会学部の教育研究組織は有効であると考えられる。

さらに、社会福祉系の学部新設が検討されるなかで、社会学部のこれまでの教育理念を発展させ、どのような教育研究組織をつくっていくかの検討が必要となっている。

(改善の具体的方策)

今後の課題としては、社会学と社会福祉学という二つの学問領域から多角的に現代社会が抱える問題と課題に取りくむという社会学部の教育理念を、これから一層多様化の様相を深めていくことが容易に予想される現代社会の状況下において実現していくうえで、教育研究組織のより一層の多様化と柔軟化が求められる。具体的には、①学問領域ごとの専門分化を進めるだけでなく、相互の有機的な連携を実現させるような教育研究組織の可能

性について検討を加える。②現代において生じているさまざまな社会問題の解明と解決に向けて、社会調査の手法や社会福祉の実践を通して取り組んでいくための教育研究活動の活性化を目指す。

2005年度からは福祉系の学部新設の検討が始まっており、それに関連して社会学部の将来構想についてもそのあり方が検討されている。